

自己評価報告書

平成21年3月31日現在

研究種目： 基盤研究 (B)
研究期間： 2006～2009
課題番号： 18320111
研究課題名 (和文) 勧修寺聖教・文書の調査と諸寺院間交流の研究
研究課題名 (英文)
A Research on the Documents of KAJYUJI
and a Study of the Cultural Exchanges between Temples.
研究代表者
上島 享 (UEJIMA SUSUMU)
京都府立大学・文学部・准教授
研究者番号：60285244

研究分野： 人文学
科研費の分科・細目： 史学・日本史
キーワード： 日本史、勧修寺、真言寺院、諸寺院間交流、聖教・文書調査

1. 研究計画の概要

諸分野の研究者が共同で勧修寺に現存する聖教・文書(除、近世文書)の調査を進めるとともに、勧修寺を中心に諸寺院間交流という共通テーマを掲げて、研究を行うことが目的である。研究を進める視座としては、社会や時代との関わりを重視する歴史学の方法を採用する。具体的な目標は次の3点である。

(1) 勧修寺に現存する聖教および中世文書の悉皆調査を行い、最終年度には、聖教・文書目録を完成させる。また、全史料の写真撮影を行い、史料の保全を図る。

(2) 勧修寺の調査成果を踏まえ、諸寺院の間での宗教的・社会的交流をテーマに、本研究グループに属する諸分野の研究者が議論を重ね、新たな宗教史像の構築を目指す。その成果は最終年度に刊行する報告書に掲載する。

(3) リサーチ・アシスタント (RA) を採用し、聖教・文書を専門的に扱うことができる若手研究者を養成する。

2. 研究の進捗状況

「1. 研究計画の概要」で述べた目標ごとに進捗状況を記載する。

(1) 文書・聖教の調書はすべて取り終え、そのデータ入力もほぼ完了しつつある。現在、目録データベースの校正作業を進めており、最終年度に聖教・文書目録を完成させる予定である。写真撮影も順調に進んでいる。

(2) 本研究目的に沿った研究会を、勧修寺での調査ごとに実施し、本研究組織構成員が研究発表を行い、議論を深めている。その成果は『勧修寺論輯』3・4号として公刊し、現在、『勧修寺論輯』5号の編集を進めている。

(3) RA を雇用し、調査にさいしては RA とともに、大学院生の協力も得ており、彼らは着実に調査技術を習得している。また、RA は本研究課題にそった研究を進めている。

3. 現在までの達成度

② おおむね順調に進展している。

(理由)
「2. 研究の進捗状況」で述べたように「1. 研究計画の概要」で目標とした事項は順調に進展している。

4. 今後の研究の推進方策

それぞれの目標にむけての調査・研究が順調に進んでおり、最終年度である本年度中に、目標とした内容を報告書として刊行できるように、まとめの作業を進めていきたい。

5. 代表的な研究成果
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計17件)

上島享、法勝寺創建の歴史的意義—浄土信仰を中心に—、『院政期の内裏・大内裏と院御所』(文理閣)、査読無、2006年、272-308

上島享、中世長谷寺史の再構築、『国文論叢』(神戸大学文学部国語国文学会)、査読有、36号、2006年、44-80

大槻信、天理図書館蔵『シヤカニヨライネンシユノシタイ』(釈迦如来念誦次第)—影印と翻刻—、ビブリア、査読有、125号、2006年、37-109

大槻信、『正法眼蔵』と日本語、『正法眼蔵』(京都大学文学部国語学国文学研究室編、両足院叢書、臨川書店)、査読無、2006年、933-953

藤原重雄・末柄豊、東京大学史料編纂所蔵『和歌真字序集(扶桑古文書)』紙背文書、東京大学史料編纂所研究紀要、査読無、17号、2007年、122-129

末柄豊、『春日権現験記絵』の奉納をめぐる、『日本歴史』、査読有、695号、2006年、62-70

末柄豊、中世後期の安祥寺について、『勸修寺論輯』、査読有、3.4号、2007年、5-24

佐藤愛弓、慈尊院栄海の活動と言説、『勸修寺論輯』、査読有、3.4号、2007年、25-43

阿部泰郎、中世聖徳太子伝『正法輪蔵』別伝における四天王寺縁起、『勸修寺論輯』、査読有、3.4号、2007年、45-61

小島裕子、東大寺大仏開眼供養作法復原(二)、『勸修寺論輯』、査読有、3.4号、2007年、63-105

武内孝善、勸修寺蔵『大師行状』、『勸修寺論輯』、査読有、3.4号、2007年、107-111

安田弘仁、翻刻『勸修寺別當長吏補任古記録』下、『勸修寺論輯』、査読有、3.4号、2007年、113-141

安田弘仁、翻刻『慈尊院次第 累祖』、『慈尊院相承次第』、『勸修寺論輯』、査読有、3.4号、2007年、143-153、

藤原重雄、『勸修寺古事』、『勸修寺論輯』、査読有、3.4号、2007年、1-4

近本謙介、聖地の継承と再構築に関する言説と行為、『アジア遊学』特集「縁起の東西 聖人・奇跡・巡礼」、査読無、2008年、22-31

近本謙介、室町の文芸とお伽草子、『お伽草子百花繚乱』(笠間書院)、査読無、2008年、316-330

藤原重雄、承安三年最勝光院供養に関する史料、田島公編『禁裏・公家文庫研究』(思文閣出版)、査読無、3輯、2009年、183-195

〔学会発表〕(計1件)

上島享、法流の相承と伝法—虚構と実態—、国際シンポジウム「仏教学を超えて—日本仏教学の新しい方向—」、2007年11月2.3日、アメリカ合衆国ハーバード大学ライシヤワー研究所

〔図書〕(計1件)

上島享・末柄豊・前川祐一郎・安田次郎共編、続群書類従完成会、『史料纂集 福智院家文書2』、2006年、247頁

〔その他〕

なし